

韓国で

松原ときわクラブ 清水 邦子

韓国のテレビドラマ「冬ソナ」が始まって以来、日本では韓国ブームになり、韓国へ行く人が急に増えた。彼らの関心はどんなものにあるのか、私はあまり知らない。多くはテレビタレント、俳優にあるのではないかと思うが、日本人でどのくらいの人が狗（いぬ）の肉を食べただろうか。私は韓国人にいい狗料理屋があるからといって連れて行ってもらった。

日本に帰って来てその話をする、ほとんどの人が気持ち悪いという顔をする。しかし、豚も牛も鶏も愛玩用を食べるとなったら二の足を踏むだろうが、私達が食べているそれらの動物は食肉用として作られたので、私たちは平気で食べているのだ。狗の肉といっても飼われているものが出てくるわけではない。私たちは鍋料理として食べたのだが、本当においしいものであった。

外国に行ったら日本では食べられないものを食べるというのも醍醐味の一つだ。私はゲテモノ食いではないし、強いて何でも食べようという人間ではないが、狗の肉を経験してよかったと思っている。以前中国に赴任しているときはウサギの肉をごちそうになった。日本でウサギの肉を食べるところがあるのかどうか私は知らない。

観光地としては冬ソナのロケ地に連れて行ってくれたので、そこは見えてきた。素晴らしい並木道を見て以前母の介護がてら見たテレビドラマを思い出したりした。日本では岩盤浴には行くが、石のサウナ、岩のサウナ、砂のサウナ、そして氷風呂にも連れて行ってもらった。

何年振りかで会った卒業生はソウルから車で1時間半くらいの京畿道（キョンキド）で素晴らしい牧師として牧会（説教したり信徒の相談にのったりすること）をしていた。まだ開拓して5年くらいだが、既にチャーチスクールもやり、忙しそうであった。また教会のそばの牧師夫人のお母さんの家に泊めてもらったので、おいしい韓国の家庭料理を毎日ふるまってもらい、感謝いっぱいの韓国の旅であった。